vinetur

仏議員、ブドウ苗木業者への緊急支援3,000万ユーロを要求

生産量は5年間で50％減少し、過去3年間にブドウ苗木5,600万本が売れ残ったと議員らは指摘

2026年11月20日（金）



フランスのブドウ苗木業者が、ワイン市場の低迷による圧力が業界の一角で強まるなか、3,000万ユーロの緊急支援策を求めている。苗木業者は、ブドウ畑の更新に必要な苗木を供給している。

11月19日木曜日、超党派の議員らはフランス政府に書簡を送り、ブドウ苗木業者向けの「国家緊急計画」を求めたと明らかにした。議員らによると、ワイン業界全体の危機によってこの分野も弱体化しており、直ちに公的支援が必要だという。

今回の要請は、フランスのワイン市場の不振が、ブドウ栽培農家やワイナリーだけでなく、サプライチェーンの上流に位置する事業者にも広がっていることを示している。苗木業者は、古いブドウ

樹の植え替えや区画の再植栽、長期的なブドウ畑の改編に向けて、栽培農家が購入する苗木を生産する。この仕組みがさらに弱まれば、ブドウ畑の更新が遅れ、生産調整も難しくなるおそれがある。フランスワインに結びつくワイン業界や飲料分野全体にとっても懸念材料となり得る。

議員らによると、苗木の生産量は過去5年間で半減した。また、過去3年間にブドウ苗木5,600万本が売れ残ったとし、ワイン生産者が植栽や投資を縮小するなか、需要が大幅に落ち込んでいることを示す数字だと述べた。

この要請はAgraが報じた。同社によると、議員らは書面で政府に窮状を訴えた。特定の政治勢力に限らない要請であることから、この分野の状況や、迅速な支援がなければ損失がさらに膨らむリスクに対する懸念の広がりがうかがえる。

フランスの苗木業界は、国内のワイン経済において規模は小さいものの、重要な役割を担っている。苗木業者はブドウ樹を繁殖・育成し、植栽用として栽培農家に販売する。事業はワイン生産者の長期的な判断に大きく左右される。生産者は通常、段階的に植え替えを行い、数年前からブドウ畑の変更を計画する。こうした判断が先送りされたり取りやめられたりすれば、苗木業者は適切な時期に売れない苗木を抱えることになる。

こうした需給の不一致が、現在の危機の中心にあるとみられる。議員らが示した数字は、受注の急減と売れ残り在庫の積み上がりを示している。苗木業者にとって、売れ残った苗木はすぐに損失につながりかねない。販売前に生産コストが発生するうえ、苗木は生鮮性のある商品在庫であり、影響を受けずに無期限で保管できる商品ではないためだ。

緊急資金の要請は、フランスのブドウ栽培で進行中の調整の規模も浮き彫りにしている。苗木生産が5年間で50％減少したことは、縮小が特定の収穫期や地域にとどまらず、将来のブドウ畑に向けた供給体制にも及んでいることを示唆する。苗木業界は、老齢樹の通常の植え替えだけでなく、市場の変化や環境面の圧力に対応するために栽培農家が必要とするブドウ品種、台木、植栽用資材の変更も支えているため、これは重要な問題だ。

11月19日木曜日に公表された情報には、提案されている3,000万ユーロの支援策の詳細な内訳はなく、Agraが報じた内容にも政府の公式な反応は示されていなかった。資金を苗木業者間でどのように配分することを議員らが求めているのか、直接支援や一時的な救済措置を求めているのか、あるいはより広範な再編計画を想定しているのかも明らかではない。

それでも今回の要請は、フランスのワイン不況が生産チェーンのより深い部分にまで及んでいることを示す材料となる。飲料企業やワイン生産者にとって、苗木業界の状況は足元の販売から遠い問題に見えるかもしれない。しかし、今後数年間にブドウ畑で何を植えられるかを左右する可能性がある。苗木業界の弱体化が長引けば、業界の一部が需要の変化や国内のブドウ畑面積の縮小に適応しようとするなか、栽培農家の対応の幅が狭まるおそれがある。

11月19日木曜日の議員らの働きかけからは、問題を一時的な景気循環ではなく、緊急性の高い事態と捉えていることがうかがえる。迅速な支援がなければ、すでに弱体化した苗木業界はさらに打撃を受け、その影響は苗木業者の枠を超えて広がりかねない、というのが議員らの主張だ。